

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム もう一つの私の家 なでしこ
(ユニット名)	なでしこ2F
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県南さつま市加世田村原1丁目9-6
記入者名 (管理者)	松村 日子
記入日	平成 20 年 3 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		法人の基本理念をベースに地域に求められる事業所づくりの理念を深めていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念の共有をスタッフ、ご家族共に図っていくことが大切であり、日々の取り組みにつながっている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		全ユニット・家族・地域とともに秋祭り・Xmas会・あくまき(地域の行事菓子)の作成販売・園児との芋ほりなど実施してきました。今後も発展させながら継続していきたい。他に年1回、福祉に関する今一番大切なことを現代の第1人者を呼んで講演会を開き、今年で20回目を迎える。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		地域の中でひとつの家として存在できるよう近隣とのお付き合いを今後も深めていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	ホームは孤立することなく地域の一員として地元に関わりよい関係を築きつつある。今後も継続し発展させていきたい。また昔馴染みの地域や人と交流を深め、終生関わって行けるように昔馴染みの老人会などに今後も継続して参加できるよう家族への理解も得ながら取り組んでいきたい。家族の協力を得て在宅時の馴染みの敬老会へ数名の方が参加され地域の方との交流を深めておられる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人には既に講演や介護予防教室・2級ヘルパー講習などの実績があり、そのノウハウやスタッフ・ご本人の特技を生かし地域に密着した形で「小さな生涯学習教室」を計画している。		平成20年度の重点目標と方針を考察・共有するグループワークで話し合わせ計画(認知症介護等)して認知症相談会を外部の専門家を招いて実施したり地域貢献に努めている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の結果は定例会でケアの見直しに活用されスタッフ全員で「どのようにすれば、よりご本人の暮らしが豊かになるか」検討している。結果は責任者とも協議し年度理念・目標に活かされている。またスタッフの励みとなっている。		法人及び管理者、スタッフが参加する会議の中で共有し検討されている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行っており活用されている。ご本人・家族からの意見で共用スペースの改善(テレビ位置など)などの暮らしの細かいことから地域と保険者からのアイデアで実現した園児との交流(なでしこ采園の芋ほり)など入居者・地域に喜ばれるサービスにつながっている。	○	今後も運営推進会議で話し合われた意見などをサービス向上に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスに移行後は、特に市との関係・連携を深めており、相談にも行き来している。		行き来には担当者により変動あるが、ホームからの働きかけは継続し市町村とともにサービスの質の向上に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設外研修で学んでおり、伝達講習(勉強会等)を行い、法人全体で必要な人にはそれらを活用できる体制が整っている。		認知症の専門事業所として今後 制度を利用される方も増えてくると考えられる具体的なサービス利用についての知識を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の母体である特別養護老人ホームで開設当初から基本として取り組んできた実績があり、管理者・スタッフは採用後必ず基本として学ぶ環境にある。身体的虐待が無いことは当然であるが日常の言葉使い、スタッフの行いの中にも敬意を持ってあたるようにしている。		法人理事長は全国での虐待防止マニュアル作成に委員として関わるなど積極的に取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は管理者とケアスタッフで読み合わせながら説明を行い実際の暮らしの内容を十分に理解・納得していただけるように対応を心がけている。また解約に関しては今後の不安のないように法人内のソーシャルワーカーや居宅ケアマネージャと連携して対応している。</p>	<p>○</p> <p>入居時は納得されるが長年入居されると家族の思いが施設化する方もおられるので家族会などで確認を行ないたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時に重要事項説明書により苦情相談窓口の担当者があることを書類・口頭で説明しており認知症状により理解が出来ない方に関しても普段の会話の中からスタッフで汲み取る配慮をしている。また法人内に第三者委員も設置しており第三者も交えた家族会や運営推進会議も定期的に行っている。</p>	<p>第三者委員は地域の関係者を選任(元市福祉課係長 元民生委員)外部の声を適切に反映出来るようなシステムづくりに努めている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問時や緊急時や利用者様の希望も電話で小まめに連絡している。また遠距離の家族に関しても定期的に電話で様子を知らせるなどしている。職員の異動に関しても家族会で報告し訪問時に確認できるように各ユニットでスタッフ紹介冊子を掲示している。</p>	<p>定期的な報告はケアプラン作成時に行い個々の状態変化などは随時行なっている。家族会でもご家族の意見や要望など活発な意見交換が行われている。今後も定期で開催したい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時に重要事項説明書により苦情相談窓口の担当者があることを書類・口頭で説明しており玄関口のわかりやすい場所にアンケートも用意している。また法人内に第三者委員も設置しており第三者も交えた家族会や運営推進会議も定期的に行っている。</p>	<p>ご意見等伺ったら、思いに即お答えできるようなシステムを法人で検討している。ご本人・ご家族から苦情や意見の出る前にスタッフが気づくようにこれが本人全体の目標にもなっている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月2回、運営者・管理者を含む全スタッフ出席の定例会を設けており運営・サービス内容などともに協議している。</p>	<p>○</p> <p>これまでご本人様よりの希望で改善された事もあるが今後も家族や入居者様の希望を聞きながら改善に取り組みたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>各ユニットの状態や生活の流れに添い、スタッフ人員を確保しており欠員スタッフが出た場合はユニットで協力して安定を図れる体制を整えている。また何らかの理由で体制が不安定になった際にもすぐに相談でき調整に働ける環境にある。</p>	<p>突発的な時こそ、速やかに対応するように法人内に緊急要請をもとめられるシステムがあり、共同の研修で心得も出来ていて当然のことと全員心得ている。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は変更無いため利用者適性を見ながら配置している。家族との関係も良好に保っている。職員の異動についても利用者への配慮を十分に行っている。</p>	<p>リロケーションダメージについては、認知症の場合、開設当時よりソフト・ハード共に配慮することは当然のこととしてきた。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員教育プログラム、職務基準書など作成し育成の為に研修を実施している。施設外研修についても参加の機会を多く持てるように受講案内をしている。	○	認知症指導者が同じ法人に勤務している為指導者を中心とした定期の研修会を開催していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県の認知症研修の実習施設として指定されている為同業者との交流が多く持てている。		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	休憩時には業務から離れられるよう別棟の休憩室を設けたり環境づくりに取り組んでいる。		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	個々の資格取得のための講座受講はヘルパー講座を同一法人内で実施している為優先的な受講や受講料の割符勤務調整等行っている。	○	認知症ケア専門士等、専門資格取得の為に学習会を進めていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談のあった時点で法人内共通のフェイスシートに本人の身体状況や環境・生活歴・相談内容を記入し分析するとともに本人の思いを大事にした関わりで不安の解消・望みの実現に努めている。特に入居時は不安や寂しさを感じないようスタッフとの関わりを大事にしている。		複数のアセスメントシートを併用するスタイルでご本人、ご家族の思いを受け止めるような会話の機会を設ける事により関係づくりにつとめている。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談のあった時点で法人内共通のフェイスシートに相談内容を記入し分析するとともに家族等の思いを大事にした関わりで不安の解消・望みの実現に努めている。又、介護疲れなどからくる体力的・精神的苦痛にも配慮した対応を心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に関わった居宅ケアマネージャー・ソーシャルワーカーとも協力し本人と家族に必要なサービスを見極めホーム入居までの支援に努めている。(修正)		相談を受理した担当者のみで対応せずスーパーバイズを受ける為のシステムづくりをしているが、全てのケースでこの機能が十分発揮できるようすすめたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	各ユニットの中で本人にふさわしい環境に近いユニット(生活歴・ご本人の知人の有無・共通の地域や関係性の深い土地性などから配慮)を提案し本人・家族・友人などに好きなだけ訪問していただき安心してできるように配慮している。また本人の気持ちや思いを尊重しつつ、家族とも相談しながら馴染みの環境づくりに努めている。		帰宅願望の強い方は家族の訪問時に一緒に帰りたいといわれるのを怖れて家族の訪問が遠く成りがちだが、頻りに訪問していただき安心してできる環境づくりを呼びかけており、電話での状況報告も行なっている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で共に携わる家事や菜園づくり四季の行事などで喜怒哀楽を共有すると共に、スタッフは昔のしきたりや郷土料理、本人の特技(編み物など)を教わることも多く、本人の語る人生からも学び得るものは大きい。又、一つの家族として共に暮らす人同士の思いやりある言動や、スタッフも含めた互いへの思いやりの言動など暮らしの支えとなっている。		グループホームでの支援のあり方、共に生活する事の意味を毎月の勉強会でも確認している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしに関わっていただくことはもちろんであるが、家族と地域と楽しむ行事もともに計画を立てて実施している。家族状況に合わせて負担にならない配慮や介護に関する悩みの傾聴も行っている。又、お盆・正月は少しの時間でも良いので自宅への帰宅が出来るよう呼びかけている。		なでしこでの行事を以前はスタッフのみの企画で実施され家族・本人はお客様であったが、昨年全ユニットの関係者(本人家族も含む)で企画運営をはじめたことで喜怒哀楽の喜びと楽しみを共有することが増えてきた。スタッフからの声掛けも困難によるものよりも喜びを伝えることが多くなってきている。今後も互いに支えあう関係を維持したい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の症状の変化や想いのずれ違いにより疎遠になっていく家族にも話の傾聴・スナップ写真入りのお手紙・近況を知らせるお電話・家族の記念日への声かけ・本人と家族の外出などの支援で心を和らげる事からはじめ、本人と家族がよりよい関係を築けるように各ユニットの全スタッフ出心がけている。		在宅時疎遠であった親戚が身元引受人として訪問するようになり、電話での交流も深まり便りにする言動が見られるようになった方もありより良い関係が築かれている。又生活が離れた事で親密になっている家族もある。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの想いに添い実現できるように支援に努めている。暮らしの中に根ざした商店の利用などはもちろんのことであるが、親戚・家族の行事、地域行事やお墓参りなども家族の理解と協力で支援している。又、訪問客も来訪しやすいうように周囲にも声掛けなど行っている。		地域の商店内での馴染みの方々との立ち話など暮らしの中に自然に見られる光景となってきた。又以前よりも血縁者・近所の方などの訪問客が増加しており喜ばしい傾向にある。今後も継続して支援に努めたい。わがままを受容でき、自己実現につなげるスタッフを育成できるように努めている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	地域の中で育まれた関係やホーム内で築かれた関係などに留意しその変化にも配慮して支援している。日々の暮らしが安定しお互いが支え合う環境になるように努めている。		食卓の席順・居室位置・各ユニットの交流も全て利用者同士の関係性や関係づくりに配慮して行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	要介護度の変化や入院などで退去されても本人・家族がホームでの暮らしを切望することが多く、法人内の他施設や居宅ケアマネジャーの協力も得ながら関わっている。又スタッフも施設・病院の訪問、電話などで近況の確認など行い本人・家族が不安にならないように心がけている。		継続的な関わりを必要とする利用者は、条件が整いしたいほば再入居となっている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切にその方らしく暮らしていただく為に本人・家族からの話しの傾聴はもちろんであるが、本人に関わる各専門スタッフからの情報・法人内共通のフェイスシートや生活歴・ライフスタイルを中心としたアセスメントを活用し把握に努め本人本位に検討している。		33・34・35についてはグループホームでのケアの基盤と捉え全ユニットスタッフで把握に努めている。又、「その人を知る」ためのスキルを高める為の内部研修を同法人スタッフでもある県の認知症研修指導者の指導のもとに行っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの思いを大切にその方らしく暮らしていただく為に本人・家族からの話しの傾聴はもちろんであるが、本人に関わる各専門スタッフからの情報・法人内共通のフェイスシートや生活歴・ライフスタイルを中心としたアセスメントを行い、その方の人生を把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の家での日常に関する把握はもちろんであるが、ホーム入居後はモニタリングを行い一日の過ごし方、心身状態、有する力など各専門スタッフからの情報も取り入れ総合的に把握するように努めている。また日々の経過も記録されている。	○	暮らしの継続性や個々の暮らしへの思い「暮し」を支援する意味を日々のケアに生かしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフも交えた本人・家族との日々の会話・、スタッフ間で毎日行われているミニカンファレンスの中で話し合われた内容、専門スタッフの意見なども反映し定期的なモニタリングとサービス担当者会議で検討し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	課題ごとに必要期間を設定し、見直しを行い次のプランにつなげている。又、状態変化には随時、本人・家族・必要な関係者と話し合い検討し現状に即した新たな計画を作成し対応している。		日々の生活の中で小さな変化でもミニカンファレンスで話し合い、ケアに取り組み経過の観察を行いながら新たな計画へと対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録し毎日のミニカンファレンスで情報を共有し活かしている。又ケアプランの評価を見直し後の介護計画に活かしている。	○	昨年、全ユニットのスタッフでお一人おひとりの日々をどのような形式でどのような記録の仕方で記入すれば継続したケアをおこなえるかグループワークで検討し現在の記録になっている。今後もお一人おひとりの日々のケアに繋がるような記録を検討し少しずつ改善していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「もう一つの私の家なでしこ」はグループホームであり事業所としては多機能性は持ち合わせていないが法人が特別養護老人ホームを母体にその人を生涯支えるサービスを整え理念を統一したサービスを展開しているため要望に応じた柔軟な支援ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて支援されている。又ホーム全体でもいろいろな地域資源と協働できるように働きかけを行っている。		ボランティア・警察・民生委員・消防・教育機関など、全て夏祭りやクリスマス会にお呼びして深い関係を築けるようにいつもこの方々の心の中にあるなでしこを目指している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じてリハビリなど医療サービスとの連携など支援されている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて支援されている。		ケアマネジャーの連携は日常的に行っており、相互が適切に社会資源にリストを作成している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にいままでのかかりつけ医との関係を持続できるように支援している。又かかりつけ医の無い方や遠方で緊急の受診の困難な方には不安のないように適切な医療を受けられるように支援している。		法人としてクリニックも持っており、関連病院との関係も良好でかかりつけ医者とのなじみの関係も深い。体力低下や認知症の進行で外来受診できない方は主治医の往診で対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>同法人内にクリニックがあり、認知症専門外来を行っている。専従のドクターがいるので安心して相談できる環境にあり、利用者も診断や治療を受けている。</p>		<p>物忘れ外来で専門医の受診を受け、日々の暮らしに個々に応じた脳リハビリのゲームを楽しまれている。</p>
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>同法人内にクリニックがあり相談できる環境にある。又かかりつけ医療機関の各専門職種にも日常の健康管理や医療について相談し支援をしている。</p>		<p>看護職の有資格数は限られている為日常的には隣接の老健あるいは法人内の看護有資格者に相談できる体制にある</p>
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院後は定期的に連絡を取りご本人、ご家族の退院後の不安がないよう支援している。同法人内のソーシャルワーカー・居宅ケアマネージャーとも連携し退院後のサービス利用について早期に相談援助をすすめている。</p>		<p>入院後は早期に見舞いに行ったり、安心して療養できるよう話しかけている。</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期ケアについては入居時及びその後の必要時に話し合い事業所としての方針、これまでの取り組み等に説明している。</p>		<p>法人内の特養・クリニックは平成2年から終末期医療を家族と共に行っている。経験を積んだ看護師との関係も深く、在宅支援専門診療所もあり、環境は整った状況にある。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>同法人内のチームで行う定期的な会議にて情報を共有しながら今後の変化に備えて検討や準備を行なっている。</p>		<p>医療との連携は不可欠である為かかりつけ医や訪問看護ステーション等チームとしてのシステム化に取り組んでいる。</p>
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>事前に話し合いを行い介護情報提供書でホームからの情報を提供している。また、本人の混乱につながらないよう十分心を使い、多面的に判断、慎重に行っている。</p>		<p>ユニットの移動の際は居室の場所を同様に設定したり前以って関わるスタッフと顔なじみになるように配慮している。又他事業所への移動も出来る限り配慮を行い本人のダメージをなくすように検討を十分に行う。スタッフをはじめ、関わる人達とともにこのことは最も大切にしていることである。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>法人で個人情報保護規定を作成しており規定に従い情報の取り扱いを行なっている。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>行事などのときは家族が来て、行事にふさわしい服装を準備してくださる方もあり、スタッフもその方にふさわしい準備は行なっている。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>ご自分でゆっくり食事をされる方の支援として食器を食べやすい位置に交換しながら本人の満足度が高まるよう声かけ支援している。調理時は献立のヒントを頂きながら考えている。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>お買い物での好物の購入・好きな飲み物の選択や特別な日の祝杯などおひとりお一人の状況に合わせて日常的に楽しめるように支援している。お誕生日はその方の好まれる献立でご馳走を作っている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の誘導の必要な方は排泄パターンの把握に努め適時にプライバシーに配慮を行い誘導している。夜間も失禁の不快感がないようにおひとりお一人に合わせて適時誘導を行っており昼夜を問わずオムツ・リハビリパンツの使用は行わない事で排泄に取り組んでいる。又各居室にトイレがあり安心して排泄できる環境になっている。		各居室にはトイレ洗面所が整備されている為個々の状態に応じた排泄ケアの取り組みも実現しやすい環境となっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、年中いつでも入浴できる体制となっており、時間帯に関しても現在は主に午後からの入浴が多いが24時間、希望があれば入浴できる。体調不良でなければ個浴でゆっくり楽しんでいただき、見守り、くつろげる雰囲気大切にしている。		高齢の方や認知症の重度化により介助の入浴が多いが、入浴中は昔の話でいきいきした面がみられており、職員との一対一のコミュニケーションの場でもある。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	おひとりお一人に合わせて対応されている。休息に関しても閉じこもり孤独感に配慮し見守りを行い昼夜逆転につながらないように気持ちの良い睡眠につなげている。夜間も夜勤スタッフが安心して眠れるように昼から継続した対応で行っている。		その日の状況により不安を持たれる方もおられる。その方の負担にならないよう日中の活性化を図り、職員も21:30まで2人体制にある。今後も家族の協力を得ながら 入居されている方が安心して休んでいただけるよう努めたい。これからは夜の生活プログラムも検討したいと理事長からの助言もある。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の趣味や生活歴から役割・楽しみを共に模索し支援し常に自信を高めるような言葉かけや働きかけを行い喜びにつなげている。日常的にドライブ・外食などの気晴らしも行っている。		現在、本人のしたい事として希望を傾聴して作成した毎日の「脳いきいきリハビリメニュー」を基に支援している。今後も可能性を含めて展開していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフは、本人がお金を持つことの大切さを理解しており金銭の管理が出来ない方も家族の理解を得て、小額のお小遣いを持っていただき買い物時に、ご本人がお財布からお金を出し、好みのものが購入できるようにその緊張感を大切にしながら支援している。		買い物をしたいときなど自ら買い物に行きたいといわれるので職員と買い物に行っており、近くのスーパーへ衣類を買いに行く事もある。現在は買う楽しみだけがお小遣い帳の活用まで支援したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のお買い物・散歩やドライブ・外食・地域行事への参加・家族との外出など選択肢を広く本人の希望にそい支援している。		ヒーリングガーデン(いやしの庭)や寝たきりになら連(介護予防の室外運動公園)も近く戸外での活動を楽しめるような工夫もなされている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得ながら支援している。家族の遠距離である方にも配慮しておりお墓参りや実家帰省も行っている。又グループでのドライブ・レストランでのお食事・文化施設・法人内の美術館の企画展ごとの見学へのお出かけなど支援している。		各ユニットで家族を交え、お花見や地元の祭りへの参加など展開して行っている。今後も家族とホーム・地域の資源を活用し本人の希望を叶えていきたい。お年寄りの希望を聞きながら毎月の行事計画を立てて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。電話の取次ぎや手紙・ファックスの受け取りはもちろんであるが個人で電話が自由にできるように3階に馴染みのピンク電話を設置している。又、利用可能な方には携帯電話も勧めている。		以前は携帯電話を使用されている方への支援として、使用法がわからなくなったり、充電するなどいつでも家族とお話ができるように声かけも行っていた。手紙については頻回に便りのある方が増えている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	スタッフ・本人・家族からも働きかけて気軽に訪問できるように努めている。又玄関まわりも季節の花や庭木を植えるなど家庭的な雰囲気に整え日中は玄関を開扉しており誰でも訪れやすい環境づくりに心がけている。共同スペース・居室でもくつろげるように心がけておりお茶道具なども自由に使えるように準備し言葉かけに努めている。		ご家族と共に 馴染みの近所の方や長寿会の方など徐々に来訪も増え、なでこは「あなたのもう一つのお家」という言い方も定着しており、ホームという考え方より脱却できそう。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の理念に深く関わっており大切に取り組んできたことである。新人スタッフにもまず初めに理解を求める研修を行い、法人一丸で取り組んできたノウハウの継続に努めケアに取り組んでいる。		法人が20年の歴史を持つ抑制・拘束なしの施設として全国的に知られており、受賞歴もある。最初から拘束なしを当たり前としてきたので、当然のことと徹底している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人の理念に深く関わっており大切に取り組んできたことである。新人スタッフにもまず初めに理解を求める研修を行い、法人一丸で取り組んできたノウハウの継続に努めケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフで連携し日々の体調・ADL・精神の状態などの変化を把握し暮らしの中でさりげない関わりで安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	おひとりお一人に合わせた危険を防ぐ取り組みを行っている。針道具・はさみ・かみそりなど管理の困難な方だけお預かりしているが本人の必要な時は安全に利用できるように支援している。包丁に関しては夜間のみ洗剤等は誤飲のないように大型の容器は安全な場所に保管している。		針道具を数名の方は持っているが他の方は必要時はホームのものをスタッフと共に使用している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルも作成されており知識の共有を図り、想定訓練も含め勉強会で知識を学んでいる。又日頃のケアの中でヒヤリハットや法人独自の事故報告書で一人ひとりの状態に応じた事故防止・再発防止に取り組んでいる。		起こってしまった事への対応はもちろんであるが、予防も大切に考え日々の暮らしの中に転倒予防体操・嚥下体操・パワーリハビリなど本人にも楽しく取り組んでいただいている。報告書と共にミニカンファや申し送り帳等で注意を喚起している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルもできており緊急対応されている。又ケアワーカーも必要最低限の対応ができるよう、定期的に法人内で行われる応急手当の講義・実技に参加し落ち着いて確実に実行できるように繰り返し学習している。		急変時は医師が24時間対応できる体制を整えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	いろいろな場面を想定し定期的な防災訓練を行っている。過去の長崎での火災事故よりスタッフ・市職員の防災意識も高まっており運営推進会議でも協議を行ったり地域の人々の協力を得られるように働きかけに努めている。		今後は、地域の協力のもと、災害発生時の協定書を結び地域の方々への協力をお願いしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には、おひとりお一人の様々なリスクについて日頃より充分な話し合いをしてご理解いただき、日々のケアの中で対応策を講じ抑圧感のない暮らしを支えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定・体調の変化やサインを記録し情報を共有しスタッフは全身で変化や異常のサインを受け止めるよう努めている。又、昼夜、Drに相談できる体制があり早期対応が適切になされる環境が整っている。		ヒヤリハットを書くことによりスタッフの気づきは育つのでまず「気づく力をつけること」お年寄りのサインを受け止められる人になる為に努力を続けている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示により正確に服用されるように、おひとりお一人の服薬関連のファイルを作成しスタッフが理解できるようにしている。又おひとりお一人の力に配慮した関わりで服薬の支援を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼ることなく適切な食事・運動・水分補給で下剤を使わない便秘予防に取り組んでいる。水分は体重にもよるが、1日に1500CCを目標にその方に応じて朝の冷たい牛乳・お茶寒天も取り入れている。以前、薬を処方されていた方も医師と相談しながら減らしていき自然でスムーズな排泄のリズムを取り戻されている。		認知症の周辺症状を出来るだけ改善する為にも便秘や排泄ケアは特に配慮し取り組んでいる。排泄観察表で排泄パターンを確認し、食事やセンナ茶などを工夫している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	同法人内の専門の歯科衛生士の指導によりおひとりお一人の口腔の状態・本人の力に合わせた支援を毎食後行っている。		歯科衛生士の指導など家族とも連携し歯科医の受診を家族へも伝えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残して把握している。栄養バランスについてもスタッフ勉強会での知識の共有を図り同法人の管理栄養士からの助言などで適切に確保できている。又、ホームで用意する食品以外の親しい方からのお心遣い・贈り物・買い物などの摂取量の把握にも努めその後の様子からバランスをとっている。		食材の使用量、献立表を必要に応じて管理栄養士へ提出、栄養価についての検討がなされている。水分摂取量については個々人の摂取量を把握し記録しサービスへ反映させている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり法人内の医療スタッフによる勉強会への参加などで全スタッフが実行できる体制となっている。		感染症予防やまん延防止についてマニュアルを作成し現状に応じて定期で見直しを行なっている。なでしこでの勉強会やユニットでの話し合いで予防の強化は行なっている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は毎日の買い物で新鮮なものを選択し、調理器具は洗浄乾燥、定期的なハイター消毒、熱湯消毒を徹底している。又、冷蔵庫内についても定期的に清掃を行っている。		食材の使用日を記入し安全な食材の管理に努めている。購入した食材は購入後3日以内に使い切るよう申し合わせている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物自体も「この建物は何かしら？」と夢や興味を持っていたけりような外観を擁しており、周囲は季節の花や庭木を植えるなど家庭的な雰囲気に整えるとともに日中は玄関を開扉し、独自に併設している庭園も地域に開放するなど誰でも訪れやすいような環境づくりに心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・天候や時間に合わせて配慮している。調度や備品は入居者にふさわしい品を配慮し調え物品も入居者の意見を取り入れた電化製品などを準備しており、フロアの装飾も入居者の手作り作品など配置したりと家庭的な雰囲気になっている。又、季節行事の馴染みの装飾・楽しい装飾など入居者とともに楽しんでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下のスペースをソファや予備の椅子、観葉植物などで必要に応じた模様替えが行えるようになっており各々に和やかな語らいの場や穏やかにひとりで過ごせる空間も確保できている。		ご本人が時々模様替えをされることもある。ご自分の好みにあった居心地の良いと思える環境作りを支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的な家具はホームにて準備しているが、持ち込みは自由である。家族の協力により、大切なもの・思い出の品・使い慣れた道具などの持ち込みもあり安心して過ごされる居室の環境が整っている。入居時にご家族へも馴染みの物を持参するように呼びかけている。		自宅で大事にしていた物家族との写真等、自分で制作したものなど馴染みのものを持ってきていただいている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節・天候や時間に合わせて適切に行えるように努めている。各室にトイレが設備されているが設計上も換気に配慮されており、爽やかな環境が保てている。		あさ
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活に関わる場は同法人内のクリニックのPTの助言を取り入れた自立支援を目指した設備設計となっている。又、おひとりお一人の身体機能の変化に合わせ、ケアの内容とともにPT・専門スタッフと検討し安全を保ち自立した生活を送れる環境づくりを行っている。		居室にはトイレも備え出来るだけ自立した生活を支援している。法人には理学療法士も数名おり、身体機能に応じた環境作りも続けていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室や共有空間の装飾は明るい優しい色彩を使用し、やわらいだ気分の中で過ごせるように配慮しており毎日のケア・清掃などの中で混乱の原因をつくらぬよう心がけている。又、認知のための表示については症状に合わせたケアで自尊心を大切にあらさず表示を避け、さりげないケアで混乱を防ぐための工夫をこらしている。		自分の好みでお部屋を飾れる力のあるうちは充分に楽しんでいただく。本人の考えや好みに基づき支援することが大切と思う。環境による混乱のないよう自尊心を大切に一人ひとりの分かる力を大切に工夫して寄り添い見守っていききたい。
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	独自に併設している庭園や1Fテラス・裏庭・小さな采園など行事から日々の茶話会まで多目的に活用している。		全ユニットで活用している。今年度より、車で10分ほどの保育園と隣接している場所になでしこ采園を利用者とともに作り、園児達との交流の場にもなっている。今後も発展させていきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	② ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は厚生労働省のグループホームモデル事業として始まり、たとえ認知症になっても地域の中で安心して尊厳を持ち、いきいきと自己実現し暮らし続ける為にどのような支援が必要かを共に考えてきました。専門医や認知症介護の専門家による定期的相談会などサポート体制も充実しています。なでこ2階は、3ユニットの中でも高齢化や認知症の重度化により日常生活の支援が多くなっていますが、適時の支援でQOLを高めて頂きたいとの思いで外出が楽しめるよう声かけしています。物忘れ外来の受診後の脳リハビリの取り組みの一環として、隣接するいやしの庭での茶話会や回想法・懐かしい歌などで楽しい時間を過ごして頂けるよう働きかけています。日々の活動としては職員と共に調理や盛り付けにも携わって頂き、ご家庭での馴染みの家事を継続しています。又散歩やドライブ時には季節感を感じられるよう周辺の景観を楽しんでいます。お年寄りの高齢化・重度化に伴い、携わる者の資質が問われるフロアです。心をこめて丁寧な接し方をしていけるよう私たちも常に研鑽を重ねていきたいと願っています。

大方の方が夕食後早く就寝されるので、その人にふさわしい夜の過ごし方をこれから考えてプログラムをつくりたいと話合っています。